

学校関係者評価報告書

愛媛県立大洲高等学校

学 校 番 号 (3 0)

評価実施日		令和4年1月19日(水)		
委 員	氏 名	所 属 等	氏 名	所 属 等
	上野マリエ	学校評議員	二宮 務	学校評議員
	中川 義博	学校評議員	古野 誉	P T A顧問
	濱田 耕造	学校評議員	藤本 治	土地家屋調査士
	井上 幸恵	学校評議員	中岡 靖典	学校関係者
第三者評価委員		作田 良三(松山大学経営学部教授)		

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
1 全般 昨年度(令和2年度)のアンケート結果が、例年になく非常に高い評価であったため、昨年度比では全体的に評価が下がったと見受けられるが、例年と比較すると、必ずしも低評価なわけではない。コロナ禍のなか校長先生をはじめ教職員の方々のご尽力の賜物と、敬意を表したい。 令和2年と令和3年のアンケート結果を比較すると、昨年度の1年生・2年生が進級して2年生・3年生になった結果、評価が下がっている項目があるのは、いささか気になる点である。 2 学習指導・進路指導について 学習指導に関する保護者のアンケート結果が昨年度並みであり、教職員アンケートでは昨年度以上の肯定的評価であるにもかかわらず、生徒のアンケート結果では、「よく当てはまる」・「やや当てはまる」の回答者の割合が、昨年度比でいずれも10%以上低くなっている(昨年度1年生:87.3%→今年度2年生:74.3%、昨年度2年生:93.1%→今年度3年生:82.0%)。今年度の数値が、例年比で大きく見劣りしているわけではないのだが、生徒の実感としての評価が上がるよう、学習意欲の喚起や学力の底上げ等、生徒の実情を汲み取った指導を引き続きお願いしたい。 進路指導に関する保護者のアンケート結果では、「よく当てはまる」・「やや当てはまる」と回答した保護者の割合が、コロナ禍のためか、昨年度とほぼ変わっており、例年に比べて低調である。 他方、同項目に関する生徒のアンケート結果では、「よく当てはまる」・「やや当てはまる」と回答した生徒の	・本年度もコロナ禍での学校生活になったが、生徒たちにとって昨年度よりも大変なことが多かったと考えられる。生徒との面接等を増やすとともに家庭との連絡も密にとり、生徒一人一人の状況をしっかり把握し、生徒が充実した学校生活を送れるようにしていきたい。 ・学習格差が大きくなってきているので、生徒の実情を詳細に分析し、生徒にあった指導方法を研究する。I C T機器を授業や課題の提出に活用することが進んでいるが、さらに研修を重ね学習指導の向上に努めたい。 ・多様な進路希望に応じた情報収集を行い、個々の生徒に応じた指導ができるようにする。 ・コロナ禍で例年と違う状況の中、よく努力し、目標とする進路に多くの生徒が進むことができた。しかし、コロナ禍で様々な不安を抱える中で、適切に情報を提供し、保護者と連携できていない部分がみられたため、評価が下がっていると

割合が、(昨年度1年次92.3%から)2年生が75.2%。(昨年度2年次88.6%から)3年生が80.4%と、特に2年生の評価が、1年前に比べて17.1%も下がっている(今年度の数値が必ずしも低すぎるわけではないが、変化が大きいのは気になる点である)。

「補習・模試等の計画が生徒の実態に合っていない」と考える教職員も増えており、進路指導については、個々の生徒の多様なニーズを踏まえながら、引きつづき情報提供・進路相談に取り組まれることを期待する。

3 生徒指導全般について

学校生活に関する生徒の回答が、いずれの学年においても肯定的である点は、非常に喜ばしい点である。昨年度は2年生の学校生活満足度に「あまり当てはまらない」という生徒が若干多くみられたが、その点も改善されている。

最近「校則の見直し」についてよく話題になっている。大洲高校に置いて、この点何か動きがあるようであれば教えてほしい。

4 教育環境について

トイレは改修され、解決されたと思っていたが、まだ、生徒から意見が出ている。学校としても十分気を配っていただいていると思うが、できる対策(清掃の徹底、臭い対策)をして改善してほしい。

冷暖房の使用時期に関する意見が何件か出ている。生徒が整った環境で学習できるよう、決められた時期ではなく、現実の気候に合わせた利用を行うようにすべきではないのか。

5 情報公開について

緊急時の対応に関する情報提供について、保護者アンケートでも生徒アンケートでも、昨年度より8%ほど低下しており、自由記述でも保護者からの意見が見られる。コロナ禍のため、情報の共有が難しい側面もあるかと推察するが、生徒の安全管理(緊急時の対応)や教育目標の周知など、保護者との連携について、いま一度再点検・工夫いただきたい。

学校行事はコロナ禍ということもあり運営が大変だったと思う。来年度以降、保護者には、生配信する等の方法を試みてはどうか。

情報の発信について、何件も意見が出ています。緊急時には常に最善の対応ができるよう、検討してほしい。

考えられる。普段から進路について話す機会を増やし、適切に情報を発信したい。

- ・生徒の実情を詳細に分析し、教職員全体で新しい進路指導の計画を立てる。

- ・学校生活について肯定的な意見が多いが、新型コロナウイルスが学校生活に影響を与えるようになってから、少しではあるが肯定的な意見が減少してきている。ICT機器の活用も進んでおり、コロナ禍でも有意義な学校生活が送れるようにさらに工夫していきたい。

- ・校則は実情に合わせ見直しをしている。本年度も女子のタイツ着用の許可など変更をした。

- ・第二教棟のトイレの改修は行ったが、予算の関係で改修されていないトイレもある。できる対策(清掃の徹底、臭い対策)をして改修されていないトイレも使いやすくしていきたい。

- ・冷暖房の使用時期については、弾力的に運用している。

- ・新型コロナウイルスの影響で昨年度から保護者が学校行事に参加する機会が激減した。本年度はICTを活用した情報発信を動画の配信も含め行ったが、さらに進めていきたい。

- ・ホームページの更新を全教職員で行うようにし、更新の頻度を増やした。来年度も学校の状況を保護者や地域に発信し、地域から応援される学校づくりを推進する。

- ・緊急時の情報発信についてはICT機器を使い行ってきた。生徒・保護者からの意見を参考にしてさらに工夫を重ねたい。

6 特色ある学校作りについて

昨年と同じように「本校の特色」について約8割の肯定的見解がみられている。生徒の学校生活満足度が高いことの表れだと考えられる。特別活動では多くの制限を余儀なくされる中、生徒・保護者ともに高い満足度が得られているのは何よりである。保護者・教職員の自由記述にもあるが、感染予防対策やその理解の呼びかけによって、学校安全に引きつづき努めていただきたい。

部活動運営について、生徒及び保護者から高評価を得ており、適切な運営・指導をされていることが伺える。一部、生徒、保護者から部活動についての意見が見られる。生徒課より大洲高校の「部活動に係る活動方針」を作成し、令和元年度より実践していると報告を受けているが、どこまで周知徹底できているのか。

今年度のビックニュースは何とんでもインターハイでカヌー部が全国優勝したことでしょう。カヌー部には洲市災害復興イベントにも協力していただいた。学校として対外的にもっとアピールした方がよいのではないかな。

7 学校経営に関して

教職員アンケートでは、現職教育や学習指導などの評価が、昨年度よりも高くなっている。2022年度からは新学習指導要領への対応も求められるため、引きつづき研修会等の機会が確保されることを強く期待したい。他方、校務分掌の構成において、評価が落ち込んでいるのは懸念される点である。コロナ対応を進めながら、同時にその業務の改善・効率化を図っていくのは大変なことと思料する。負担の分散など、先生方の協働によってこの局面を乗り越えることを期待してやまない。

また、教育目標について、「実状や実態に合っている」と捉えている教職員が減っているのも気になるが、「保護者に十分に伝わっている」と感じる保護者が減少しているのも気がかりである。

・本校の特色である「藤樹祭」は行うことができたが、昨年同様、縮小された上での開催となった。学校行事等については、感染予防対策を十分行い、生徒たちが満足できる活動ができるように全教職員が協力して行いたい。

・「大洲高校における部活動に係る活動方針」に基づき、部活動の充実を図ることができており、評価も高いと考えられる。コロナ禍で難しい面もあった。試験期間の活動、終了時間、勉強とのバランス等を考え、新型コロナウイルスの予防対策を徹底し、安全・安心な部活動に努めたい。

・カヌー部については学校として様々な場面で情報発信をしてきたが、コロナ禍で難しい面もあった。カヌー部があることは本校の特色である。これからも様々な場面でアピールしていきたい。

・コロナ禍で行うべき研修は増えている。必要な研修を適切に行い、教育活動が充実したものになるようにしていきたい。

・校務分掌について適材適所でないと感じている教職員が増えている。本年度の状況を踏まえ改善していきたい。

・教育目標は全教職員が理解したうえで保護者に伝える必要がある。年度当初に徹底したうえで、保護者に適切に伝えたい。